

## アズキの貯穀害虫に注意！！

アズキの収穫もほぼ終了し、出荷をすまされているところもあると思います。乾燥貯蔵中にアズキゾウムシ等のマメゾウムシ類によって食害されることがあるので、注意が必要です。

11月下旬に、府内アズキ産地の生産者から貯穀害虫が多く発生しているとの情報が寄せられています。軒先や倉庫で保管されているアズキにマメゾウムシ類が発生する可能性がありますので、注意してください。

### マメゾウムシ類の種類

#### 1 アズキゾウムシ

日本では貯蔵アズキを食害する重要害虫です。成虫の体長は2～3mm内外で体は赤褐色、翅鞘には複雑な白条紋があります。成虫は豆の表面に産卵します。その際、一度産卵した豆を避け、新たな豆に産卵する習性があります。

ふ化した幼虫は豆の中を食害します。3齢を経過した後に豆の表皮の内側に蛹室を作り蛹化します。羽化した成虫は数日間蛹室にとどまった後、表皮に円孔をあけて脱出します。

また、幼虫は最初に食入した豆で成育を完了するため、同一の幼虫が複数の豆を加害することはありません。

なお、本種成虫は、摂食せずに交尾、産卵することができ、わずかな世代数の間に倉庫内アズキが大量に被害を受けることがあります。

発育零点や25℃条件下での各ステージの発育日数は表1のとおりです。

#### 2 ヨツモンマメゾウムシ

現在、千葉県以西の港湾倉庫などで発生が認められています。成虫の体長は3mm内外で翅鞘に黄褐色斑点と黒褐色の斑紋を持っています。被害や生態はアズキゾウムシに似ています。

表1 アズキを加害するマメゾウムシ類の発育零点と各ステージ発育日数

種類	発育零点	発育日数(25℃)			
		卵期	幼虫期	蛹期	計
アズキゾウムシ	11	5日	20日	7日	32日
ヨツモンマメゾウムシ	14	5日	22日	10日	37日

発育零点：昆虫の発育が停止する温度

## 防除方法

- 1 食害されたアズキ等には卵、成幼虫、蛹が残っていることが多く、また、豆内部に侵入した幼虫の防除は困難なことから、新たな被害の発生源となる可能性がありますので、貯蔵場所を常に清潔にします。
- 2 アズキゾウムシは低温（15℃前後）で活動を停止し、加害しなくなるので、冷蔵保管します。
- 3 D D V Pくん蒸剤を使用する場合は、倉庫の壁際などに2mの高さにつるし、間隔は3m位とします。また、くん蒸時間は72時間以上とします。

なお、**農薬による防除は、最新の情報を確認してから使用してください。**

最新情報は、農林水産消費安全技術センター（旧農薬検査所）ホームページ（<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vt11m000.html>）をご覧ください。



図1 アズキゾウムシ成虫とアズキ被害



図2 アズキゾウムシ成虫（拡大）

### 引用文献

梅谷 献二（2003）日本農業害虫大辞典（梅谷 献二・岡田利承編）. 全国農村教育協会，東京，pp. 993-994.

中北 宏（2005）植物防疫講座第3版4刷（「植物防疫講座第3版編集委員会」編）. 日本植物防疫協会，東京，pp. 343.